

## ボタニカルアートから見た薬草

### ヒドラスチス根

キンポウゲ科に属し、学名の *Hydrastis canadensis* が示す様にカナダ原産の多年草です。根茎から一本の茎が伸びて特徴ある掌状葉が2枚出ます。春、茎頂に白緑色の3弁花を開きます。秋には果実が赤く熟します。果実や葉が薬用人参と似ている事から薬用人参と間違っているケースもあります。

薬用部位は根茎で黄連によく似ています。日本に自生している黄連に近い種ですので、ベルベリンを含んでいる他ヒドラスチニン、カナデイン等を含んでいます。これらの成分は極めて苦いことから苦味健胃薬とする他、止血にも用いられます。また。ベルベリン等が鮮やかな黄色を示すことからアメリカインディアンは染料としても用いていました。

本画はカーラーによるもので、1800年代末の作品です。カーラーは多くの薬用植物の画を描いていますので、生薬の講義に供覧していたことを思い出します。

